



復刊第143号
題字 吉岡弥生

巻頭言

副会長 野澤良美

紫陽花も美しく色づいてまいりました。いよいよ梅雨入りとのことですが、諸先生方におかれましてはお元氣にご多忙の日々をお過ごしのことと存じ上げます。

本年5月7日(日)より12日(金)まで、オランダのハーグにおいて第23回国際女医学会議が行われました。日本より総勢四十名を越す会員及び同伴者の方々のご出席により盛大にしかも楽しいひと時を過ごすことができました。新しく参加国となったベニン、ザンビアを含め四十二カ国からの出席会員の他、東欧諸国を中心に二十数名の個人会員の参加、一一〇(日本から二題を含む)に及ぶ論文数で、テーマ「変化する世界の中の女性の健康」について発表が行われました(国際会議につきましては別に詳細な報告があることと存じます)。佐藤会長始め平敷ナショナル・コー

ディネーター、橋本葉子先生方の限らないご助力のお蔭で一人の欠員もなく全員無事帰国できましたことは何よりの幸せとホッといたしました。帰国後間もなく5月27日、28日両日は埼玉県大宮ソニックシティにおいて日本女医学会第40回定時総会が開催されました。何より気になっておりましたところの昭和55年より現在まで十五年間据置かれてまいりました会費八千円を本年度は、金利(公定歩合)の低下、物価指数の上昇等により事業活動を減らすべきではないという理由のもとに会費値上げにふみきらなければと佐藤会長を始め

理事担当の先生方のご努力は一方ならぬものがありました。評議員会、総会と出席会員の諸先生方のご熱心なご討議によりご賛同が得られました(一万二千円(年会費)に改定されましたこと、まことにうれしく心より感謝申し上げます。次第でございます。引き続き済生会栗橋病院々長、滝沢敬夫先生の「問質性肺炎の臨床」と題しての記念講演が行われました。経験豊富な先生のご講演は診療にたずさわる私共にとりまして大変有益で有難く拝聴することが出来深く感謝申し上げます。夜6時からの懇親会では趣を一変し、「彩の国さいたま」の魅力を存分に満喫することができました。多数の医師会長の先生方及び女性の副知事坂東眞理子様のご挨拶をいただき、懐かしい歌の数々をハープ、フルート、マリンバ、ピアノ演奏とソプラノ独唱と時の経つのも忘れるほど、陶酔させていただきました。埼玉県支部長関根みよ先生を始め準備委員の先生方の細やかなお心づかいが感じられ、とてもうれしく感じました。厚くお礼申し上げます。オランダのキューケンホフ公園でのチューリップの花の色の微妙な美しさ、木々の緑の美しさ、空気の清浄さにすっかり心が洗われた想いがいたしましたばかりでしたが、美しい花を見、美しい音楽を耳にし、心にゆとりを持って、やさしい気持ちで日々患者さんに接することが、どんなに大切なことかとつくづく感じさせられました。毎日の分刻み、秒刻みの生活があればこそ、この楽しさ、喜びを味わうことができるのかも思われます。心に余裕があればこそ思いやりの心づかいもできることと信

もくじ

巻頭言……………野澤良美(1)

〈第40回日本女医学会定時総会〉
会長あいさつ……………佐藤千代子(2)

定時総会議事録……………(3)

各賞と研究助成

吉岡弥生賞を受賞して……………山崎倫子(4)

吉岡弥生賞を受賞して……………水田祥代(5)

地域功労賞を受賞して……………門脇シヅエ(5)

地域功労賞を受賞して……………清水静枝(6)

地域功労賞を受賞して……………濱田幸江(6)

学術研究助成を授与されて……………澤口彰子(7)

学術研究助成を授与されて……………山本真由美(7)

学術研究助成を授与されて……………橋本しをり(8)

定時総会報告記

第40回定時総会を開催して……………関根みよ(8)

総会あれこれ……………田中蘭子(8)

観光旅行Aコース同行記……………深井登起子(9)

〈第23回国際女医学会議(MWIA)に出席して〉
第23回国際女医学会議から……………行定法子(9)

第23回国際女医学会議に参加して……………平敷淳子(10)

プロバンス地方とブルージュの旅……………橋本葉子(13)

ベネルックス三国・モーゼル溪谷・ライン河紀行……………久田タカ(14)

ニス・南仏プロバンス地方観光……………川村章子(14)

オランダの印象……………金田八重子(15)

阪神淡路大震災義援金のご報告……………稲生襄(16)

義援金賛同者芳名……………(17)

同 収支報告……………(18)

評議員会議事録……………(19)

理事会議事録……………(20)

会員動静……………(20)

編集後記……………(20)

意義のあるように使わせていただきたいということでお任せして帰りました。宮地支部長は、大変ありがたい、ぜひ日本の総会に出席して、私どもの感謝の気持ちをぜひ直接お伝えしたいと思っておりますけれども、家があげられなくて出られないため、何とぞ皆様によりよくお伝えくださるということをお願いいたします。

今回、神戸に参りましたら、表面はほどどこに災害があったのかと思っただけで非常にきれいに整備されておりました。しかし、こういった行政の修復作業は進んでいるようでございますけれども、個人、個人が受けられましたグメージは、とてもとても想像を絶する状態でございます。診療所を再建したいと思っておりますけれども、それが難しい。なぜならば、診療所再建に際していろいろな機関、あるいは医師会の方から、その新築、改築のための資金はお借りすることが容易にできるけれども、その返済に際して猶予期間があるわけではなく、利子も無利子ではない。お借りした翌月から利子とともに返済をしていかなければならない。こういった状況があつてなかなか診療所の再建ということが、今困難である。それでも私どもは、やはり自分たちが医者であるから診療所を再建して、今までの患者さん方をぜひ診察しよう、と、今話し合っているところなんです。今話していただきましたので、お伝えさせていただきます。

のお話をさせていただきましたが、今総会では例年のごとく表彰をさせていただきますが、吉岡弥生賞、荻野吟子賞、それから研究助成金、いずれも大変立派な方々に決定いたしました。うれしいことだと存じております。

特に、今総会で初めて地域功労賞というのを荻野吟子賞の中の一部として設定させていただきました。これは各支部から非常にたくさんこういった方々がいらつしやるので、ぜひ荻野吟子賞をあげていただきたいと思います。そこで、私も慎重にそれを検討させていただきました。その方々は大変高齢な方ばかりでございますが、ただ、高齢になるまで自分で診療を続けていたというだけの理由ではなく、パイオニア的な存在と申しますか、非常に早くから女性社会の中でリーダーとして活躍にありまして、女性の地位の向上とか、あるいは地方議員となられて行政の面で活躍されたり、また社会奉仕活動に非常に貢献されてきたというふうな方々ばかりを推薦いただきましたので、特別にこの地域功労賞ということを設定させていただきました。本日三名の方を表彰させていただきます。それと、5月7日から12日までオランダのハーグで国際女医学会が開かれました。参加国が四十二カ国、参加者約四五〇名、これは実際には少し数字が異なるかもしれませんが、

日本からの出席者は四二名でございます。テーマは「ウイメンズ・ヘルス・イン・ザ・チエンジング・ワールド」で日本女医学会からも二人の発表がございました。この件にしましては、後ほどナショナル・コングレグから詳しくご報告いたしますので省略させていただきます。

ただ、大きなニュースといたしまして、その席上、山崎前会長が国際女医学会の名誉会員として表彰を受けられましたことでございます。それから、当会の理事でいらつしやいます橋本葉子先生が、国際女医学会副会長に選出されました。そして一九九六年、来年三月に先生のご主宰のもとに西太平洋地域会議をニュージランドで開催することになっております。ぜひ日本からたくさんご出席いただきたいとお願いたします次第でございます。

さて、最後になりましたけれども、今総会で最も重要な懸案事項は会費改定の件でございます。会費の値上げは執行部といたしましては何とかできる限り回避したいということ、いろいろ検討し苦慮いたしました。しかしながら、現行の会費ではどうにも予算案が組み立てられないという状況に立ち至りました。それで検討に検討を重ねまして算出いたしました改定案を、ただいま評議員会の方へ提出させていただきました。評議員の先生方から大変厳しいご意見も賜りまして討議させていただきました。

おかげさまで可決、ご承認をいただきましたことをご報告させていただきます。

総会におきまして、なお会員の皆様方から徹底的にこの件につきましてもご討議いただきたいと存じております。後ほど会計担当理事より詳細にお話をさせていただきますので、何とぞよろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

最初に申し上げましたように、執行部の運営努力目標といたしましては、会員の増強を図りたいと申しあげましたが、これは会費の増加がやはり収入の安定をはかる上で大切な要因でございます。なお、会費改定ができませんような事態に立ち至りましたら、事業を縮小いたさなければならぬということになります。事業を縮小いたすということは、女医学会の存在

価値をみずから引き下げることであり、私は思いません。いろいろな継続事業に加えまして、今期学術部のワーク・ショップといたしまして二回「女医の未来像」、もう一回は「女医の国際貢献」ということで開いていただきましたが、ともに大変好評でございます。このときに私は私も自身が、それぞれ女医学会の存在意義をもう一度見直す時期ではないか、こういったことについて見直していただけたのではないかと感じました。今後も、会員の先生方のいろいろなご意見、ご指導を賜りまして、新しい発想に基づく活動を展開してまいります。存じますので、よろしくお願い申し上げます。ごあいさつを終わらせていただきます。ありがとうございました。



名誉会長 山崎 倫子

▼吉岡弥生賞を受賞して

このたびは吉岡弥生賞をいただく栄誉に恵まれ大変光栄に存じます。ご推薦くださいました諸先生、ご審査賜りました先生方に厚くお礼申し上げます。

佐藤会長のお読みあげ下さる授賞理由を伺い、あれこれ思いを巡らせながら、私は日本女医学会々員として、後に副会長、会長の任にあたり、たまたまに、積極的に努力してきた

にすぎなかった、当然のことではなかったかと、賞の重みのためらいさえ感じました。

社団法人の資格取得に際しても、国際会議の大成功にしても、会員皆様の一致団結と協力があつたからこそできたことでありました。

しかし外部の方々のご支援ご協力も決して忘れることはできないのであります。あえてご披露させていただきますと、特に法人格取得に当たっては元日本医師会長武見太郎先生に、第15回国際女医学会開催(一九七六)に際しては、時の厚生省医務課長の古賀章介様、日医事務局長の山形操六先生に、また快適な国際会議のハード面での数々のご配慮は京王プラザホテルに大変お世話になりました。幸せであつたと感謝の気持ちで一ぱいです。

近年は高齢者福祉の面で高い評価

をいただいておりますが、これと私の理念と情熱だけでは為し得ませんでした。夫、山崎の決断と協力、職員をはじめ数多くの地域ボランティアのあたたかい支援と協力があつてこそ地域高齢者のQOLに貢献できているのです。

二十六年、龍智恵子先生の「吉岡弥生賞」のご提言と荒川あや先生

▼吉岡弥生賞を受賞して



福岡支部 水田 祥代

からの基金のご寄贈があつて設定されたものであります。改めてお二方に感謝申し上げます。

お礼の言葉を認めるに際し、日本女医学会のますますの発展を祈念し、これからの賞に値する人生を歩んで参る所存でございます。ありがとうございました。

このたびは吉岡弥生賞をいただく栄誉に恵まれ大変光栄に存じます。ご推薦くださいました諸先生、ご審査賜りました先生方に厚くお礼申し上げます。

この独りよがりの思い込みではないかとメスを持つ者として常に自問しながらの「Angel baby, dragon mother」たちの毎日です。

教室を主宰させていただくようになりまして七年目になります。教室員四二名(その内女性九名)の小所帯ですが、「力の出し惜しみをしない」ことをモットーに、全員が持てる能力をだしあつて、胎児医学や思春期医学へ、さらには小児外科の治療を必要としないようなこともたちが増えるように予防医学への道を求めて夢は拡がります。これからも若い教室員を大切にして活気ある教室を作っていきたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどなにとぞよろしくお願申し上げます。

▼地域功労賞を受賞して



山形支部 門脇 シヅエ

このたびは、地域功労賞を受賞させていただきます。誠にありがとうございます。

受賞の感想などをせむ寄稿とのご依頼がございましたが、母は平成元年病にたおれ、入退院のくりかえしをしながら養生をされましたが、昨年の6月からは寝たきりの状態になり会話が満足にできません。5月27日

この賞の受賞につきまして、ご尽力をいただきました岸よし先生から受賞式には「ご家族の方のご出席でも」ということになりましたが、母の看護人である私たち(三男夫婦)は実は手術後のやみあがり毎日

◆受賞を祝します◆

新井タネ先生 (埼玉支部、昭15東女医卒)
平成7年春の叙勲にて、僻地医療並びに長期にわたる学校医の貢献に対して。

佐伯輝子先生 (神奈川支部、昭32東邦大医卒)
平成6年11月、労働者たちの街横浜市寿町にて十六年間、赤ひげ女医」といわれる仕事をこつこつとつづけて。

〈医療功労賞〉
平成7年2月、同賞地方表彰にひきつづき、中央表彰(全国で十八名)

右お二方は既に吉岡弥生賞をいただいております。重ね重ねのお受賞、おめでとうございます。今後の活躍を切にお祈り申し上げます。

看病が一杯でございますと、ご連絡いたしましたところ、私が代理で頂戴してお届けしますからご心配なくとの返事をいただき、私たちがホッと胸をなでおろし安心すると同時に感謝の念で一杯でした。

岸先生には、ご多忙中のところ、そしてまた遠路を地域功労賞の伝達のためにわざわざお越しいただき、そして立派な賞状と記念のメダルをお届け下さいました。母に賞状の文言を大きな声を出して読んであげ、メダルを手にもたせたところ、ひとこと「ありがとう」といつてコクリとつぶやいていました。

▼地域功労賞を受賞して

埼玉支部 清水静枝



このたびは地域功労賞を頂きましたことにありがとうございます。私は昭和16年から、自分が生れた好きな村で自分にできる仕事をコツコツ続けて来ただけの老医師です。自分の好むところで自分にふさわしい仕事を長く続けられたのは四囲のたくさんの方たちにあたたかく応援して貰ったおかげです。

昭和16年ごろは貧しい農村でしたから、現在の方たちには想像もつかないほど不自由な暮らしでした。蛔虫症あり、農具による傷の感染あり、

その変化に依りて診療所の仕事の方も蛔虫駆除の時代から伝染病との闘いの時代、産院の仕事、家族計画の相談といろいろに取り組みました。現在は健康管理の仕事、成人病予防の仕事へと変化して参り、今後は老人病学を学び、老人の愉しみを探し、老いてもなおたくさんの生きる喜びを見つけて、この地の若い人たちに美しい丘陵の武蔵野の自然を余りこわすことなく残し伝えたいと思えます。現にこの町のお年寄は、田植えもやり、畑に野菜も作り、道路まで草花で飾り、綺麗な自然を守ろうとしています。

このようなきさやかな老田医の仕事も認めて下さった日本女医学会の先生方どうもありがとうございます。喜んでお受け致し、なおにこにこ婆

▼地域功労賞を受賞して

北海道支部 濱田幸江



このたび図らずも地域功労賞を拝受して実のところ戸惑っております。私よりもご苦労なされた方もおられると思っております。このような賞をいただき、誠に光栄に存じます。昭和9年帝國女子医専を卒業しましたが恩師額田校長の「人生の意義は努力にあり」とのお言葉が深く私の心に銘じました。

省みすれば、冬の往診の折、馬に湯たんぽを入れて送り迎えをしてくれた患者の事や、また夜中の往診の帰りに突然の猛吹雪に巻込まれ行くも帰るもならずもう駄目かと思つた時、不思議にも無言の方に助けられました。またつたない若いころ、かの患者さんにはああもしたら、またこうもして上げたらと後悔する想

吉岡弥生賞推せん

平成七年吉岡弥生賞授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。締め切り期日は、本年十二月二十五日までに願います。なお次の書類を添えて、ご推せんをお願いいたします。

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ、医学に貢献した現会員。
- ロ、社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

い出が走馬燈のように浮かんでまいります。ことに私は生来身体が弱く、開業して五年目の冬の夜中に三つの往診があり、それが身に伝え、心不全で二年間入院致しました。しかし現在まで六十一歳の長い間開業が続けられたのも、患者さんに支えられましたこと、開業以来患者四代にわたる方も多く、相談医として今日に至りました。また諸先生、友人、家族に助けられて今日に至りましたのは、本当に皆さまのお蔭と深く感謝いたしております。今後は余り身体に無理をせず、患者さんのためにも長生きをせよ、地域医療に尽くしたいと考えております。おわりに日本女医学会のますますのご発展と諸先生のご健康を心よりお祈り申し上げます。どうもありがとうございます。

▼学術研究助成を授与されて

東女医学内支部 澤口 彰子



今回、女医会における学術研究助成を頂き、光栄に存じます。

平成7年5月27日(出)、モダンかつ荘厳な大宮ソニックシティホールで開催されました日本女医学会第40回定時総会に出席し、佐藤会長が朗々と読まれた表彰状を頂いた時は、まことに感激いたしました。

東女医大を卒業後、法医学を志して二十年以上、俗に「花も実もある働き盛り」といわれますこの時期に、栄ある表彰を受け、感激も一入でございます。この感激を胸に深く銘じて、今後も研究教育に力を尽くす覚悟しております。

本年6月1日発行のMedical Tribuneに「女性研究者は大学での昇進が遅い」との原因として「学問の世界での成功には交渉力が重要であるが、女性は男性ほど交渉を進めるのがうまくない」と、また「女性が得られる研究資金は少なく、これは交渉力が原因ではないか」という、大変考えさせられる記事がみられました。一般的にこのような状況のもとでいただいた、女医会の研究助成金はまことにありがたく、またご推薦および助成対象に選んでいただいた諸先

生方に深謝致します。

私の研究課題は、「Restriction Landmark Genomic Scanning (RLGS)法の法医学的個人固定への応用」です。ゲノムスキニングとはゲノム上の多数の座位につき、そのシグナルを高速に検出し、その有無を判定することです。RLGS法は現存する最も高精度のゲノムスキニング法であり、一回に二〇〇〇〜三〇〇〇の座位を同時に検出できます。一方、法医学に現在応用されているDNA解析技術はDNAフィンガープリント法、PCR法であります。これらは一回の工程で一〜数座位しか検出できません。RLGS法を法医学的に応用することによって、刑事鑑定、民事鑑定(親子鑑定)などの法医学的業務の精度を飛躍的に高めることが本研究の目的であります。

刑事鑑定には、DNAなどによる個人固定及び司法解剖による司法鑑定があります。司法鑑定には、解剖所見、ガスマススペクトログラフイなどによる薬毒物分析や個人固定等を総合して作成する鑑定書業務があります。

▼学術研究助成を授与されて

岐阜支部 山本真由美



このたびは、第40回日本女医学会総会において学術研究助成を賜わり、誠にありがとうございます。「糖質ステロイドホルモンによるインスリン抵抗性の出現機序解明について」プロジェクトの研究について、応募させていただきました。わが国における、近年のインスリン非依存型糖尿病(NIDDM)の増加は、諸外国に例を見ないほど著しく、六〇〇万人を突破したといわれます。NIDDMの病因は、インスリン抵抗性とインスリン分泌不全にあるといわれますが、NIDDMの細胞内情報伝達機構における詳細なメカニズムは、依然、解明途上です。したがって、NIDDMの子防法や治療法も、依然、未確立であるのが現状といえます。

われわれの教室では、各種内分泌疾患における耐糖能に関する研究や、インスリンの細胞内情報伝達機構に関する研究が精力的に行われております。安田圭吾教授、石塚達夫助教のご指導のもと、糖質ステロイドホルモン過剰状態に出現するインスリン抵抗性をモデルとして、NIDDMのインスリン抵抗性発現機序を

荻野吟子賞推せん

平成七年 荻野吟子賞 授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せん理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもつて提出してください。

らに明らかにするために、糖質ステロイドホルモンの蛋白質リン酸化反応に対する影響や、PKCのメッセンジャーRNA発現に対する影響を検討することとしました。この病態解明は、NIDDの発症予防や治療法開発につながるものと思っております。頂いた助成金を有効に活かし、

成果の出ました際には、ご報告申し上げたいと存じます。

貴重な助成金をいただきましたことを、佐藤会長を始め、会員の皆様に深く感謝いたします。そして、今後とも会員諸先生方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげ、お礼とさせていただきます。



東女医学内支部 橋本しをり

▼学術研究助成を授与されて

今回は平成7年度第15回日本女医学会学術研究助成をいただきありがとうございます。私は昭和55年に東京女子医科大学を卒業後神経内科学教室に入局し、主に自律神経に関する研究に従事しました。その後昭和63年より5年間にわたり、米国コーネル大学附属ノースシオア病院研究所に留学する機会を得、リウマチ学教室のChiorazzi教授のご指導の下、慢性リンパ性白血球細胞の免疫グロブリン遺伝子の構造解析に関する研究や、B細胞レセプター複合体分子であるB29及びMB1遺伝子のCDNAとゲノムのクローニングを行いました。帰国後は留学中に学んだことを神経学の分野に応用し、今回は自己免疫性神経疾患におけるB細胞のレパートリーを、免疫グロブリン遺伝子の可変領域の使用頻度

並びにそのCDR3部分の多様性を基に明らかにすることをテーマに応募させていただきました。自己免疫疾患の病因や発症機構はT細胞を中心と語られることが多いのですが、今回の研究によりB細胞の関与もまた重要であることが明らかになればと期待しております。

臨床面では最近岩田誠教授が赴任され、教室全体がまた新たに活性化された感じで、これを機会に心新たに臨床神経学の研鑽を積みたくと考えております。また留学前に女性のみで八〇〇m峰登山隊を組織し登頂しました。そこで行った高所での生理学的研究に関しても少しずつ継続し、スポーツ医学、特に女性とスポーツに関する仕事ができればと考えています。

今後は女医会より研究助成を受け

★定時総会報告記★

第40回定時総会を開催して

埼玉支部 関根みよ
埼玉支部 田中蘭子

第40回日本女医会総会は、平成7年5月27日、大宮ソニックシティホールにて、午後1時より開催されました。埼玉県は浦和市が県庁所在地ですが、近年大宮に県の施設、ソニックシティができ、大小のホール、国際会議場を始めソニックシティビルには、展示場、会議室、研修室、市民ホールなど多くの設備をそなえ、隣にはパレスホテル大宮が接待、交歓の場として控え、また交通の便は、東北、上越新幹線を始め、高崎線、京浜東北線、埼京線、川越線などが乗り入れて便利な上、駅から徒歩三分という地の利を得て、多くの催しが行われるようになりました。

総会を開くにあたってまことにうつつけの場所でありましたが、いざ使用してみると、ホールと会議室の連絡通路が複雑であり、また看板は不可というお役所仕事らしい難点もあり、ご参加の方々には、少なからずご迷惑をおかけしたと思っております。

公開講演会開催依頼について

各支部におかれまして公開講演会を開催して頂き、各地の実情に合ったテーマ、演者、日程を組んで、公衆衛生活動にご参加くださいますよう、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

各支部から開催のお申し出があれば、資金、演者派遣などご希望に応じて、協力させていただきます。

事業部

た者として恥じることはないよう努力していく所存であります。女医会指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

性肺炎という古くて新しい病気の病理と治療について、わかりやすくお教えいただき、現在、高齢社会の中で臨床医として働いている私たちに、よき勉強になりました。

さて待望の懇親会は、県医師会長を始め、医師会関係の大勢の来賓にお出でいただきました。総会のための助成金陳情に心良く応じていただいた土屋義彦県知事は残念ながら同時刻に開催された知事主催のOBサミットのため欠席されましたが、代理に女性副知事の坂東万理子氏が顔をみせられ、女医会としては、嬉しいことと思っております。

アトラクションは、ここの一番、当支部の顔の広さを物語るメンバーで、ハープ、フルート、マリimba、ピアノ、日本歌曲、カンツォーネと、それぞれの分野で著名な賞をとられた

方々の熱演が繰り広げられ、時のたつのを忘れてお楽しみいただけだと思っております。司会進行役の深井らは、ハラハラドキドキして時計にとらめっこしていたとは、後日談でした。

なおつけ加えさせていただきますと、パレスホテル4階の懇親会場、ローム前のロビーに、「女医第一号 荻野吟子・第二号生沢クノは、埼玉

総会あれこれ

埼玉支部 深井登起子

果人であった」と題して二十枚ほどの展示物を掲げました。かなり多くの方に興味深くご覧いただいたように聞き喜んでいます。

無事に総会開催の重責を果たすことができて、支部長始め役員一同ホッとしております。これはひとえにご参加の皆様方、本部役員の方々、事務局の方々のご協力の賜物として、深く感謝いたします。

は、楽しい夕食会となり少々のアルコールが入ると皆うちとけて、リハールの再会を約して散会しました。好評だった赤いロングベストは、加島副支部長が探して下さったもので、いささか気恥かしかったのですが、当日はそれぞれが素敵なコーディネートだったと思います。埼玉は団結力がありますねとほめていただけなのは、準備委員会と赤いベストのおかげかしらと自画自讃しております。

さて総会は、最も難題であった会費値上げの議案がスムーズに可決されたこと大へんよろこばしいことでした。値上げの根拠として具体的な数字を提示しての説明が、まことにわかりやすく、出席者一同納得され

観光旅行Aコース同行記

埼玉支部 行定法子

講演会は、「間質性肺炎」という私にとつては、やや耳馴れない疾患について滝沢先生の明解なご講演を聞き、学生時代にもどったような感銘をおぼえました。

夜の懇親会では、司会をさせていただきますました。煌めくシャンデリア、大勢の来賓、会員の方々の華やかなドレスやささめき、ハープ、フルート、マリimbaにつづいて日本歌曲の

第40回定時総会も大成功裡に終了し、翌日の観光旅行に世話役の一人として同行いたしました。

5月28日、昨日の興奮の余韻を残したまま、大型バス二台で、大宮パレスホテル玄関前を午前9時30分出発、風も爽やかな五月晴の中、われわれ世話役はこ来会の皆様からご好評いただいた真紅のベストを身につけて同乗。逆コースなので、スムーズに進行、約四十分で第一観光地川越に到着。蔵造り資料館見学後、皆さんイモアイス、イモアイスと菓子屋横丁へなだれこみ、それぞれ童心にかえって縁台でイモアイスを頬張るしあわせなお顔はどなたも三十年以上タイムスリップした貴重なお姿

「初恋」宵待草の独唱、最後の李さんのカンツォーネが会場一ぱいに響きわたり、まことに至福の時を過ごしました。ただアンコールの超サーピスに、終了時間がややおくれてしまい、お帰りの時間が気になる方に申しわけございませんでした。フィナーレで皆さまと一緒に歌った、「今日の日はさようなら、また会う日まで」がいつまでも耳に残っております。

一息ついて次の観光地小川町の和紙資料館へ。広い敷地に白壁の建物が並び、紙ばかりでなく県内の特産物の織物、人形、茶等の展示があり、ギャラリーには和紙の上にドライフラワーで絵を書いた素晴らしい額が並び、その素材さに打たれました。

昼食は山岡鉄舟が好んで食したという二葉の忠七めしを味わい、最終目的地荒川上流の長湊舟下りに向いました。さすが地元会員の配慮が効いて、いつもなら車の渋滞で動きが取れない一本道も日曜午後の逆コースで何なくクリア、水量も適当で、船頭の巧みな竿捌きで、美しい緑の中大岩量や瀧、波しぶきを満喫して、

宿の長生館の庭先に到着、一昨午天皇皇后お成りて手入の行届いた美しい庭から部屋に入りました。

午後6時30分から大広間で、埼玉支部会員総出演、服部演芸部長作・並びに演出の大舞台が始まりました。関根支部長も主役に引っぱり出され、一同抱腹絶倒、続いてご来賓の諸先生の友人はだしの芸をご披露いただき、湧きに湧いた後、前もってご依頼してあった本職の秩父音頭の御一行が到着、保存会々長で秩父市開業金子千侍院長が、秩父屋台囃子の正式なご紹介をして下さり、踊りの中に地元の機織りや歌舞伎の所作が入っており、大太鼓小太鼓もおのおの大勢の屋台の引手を一糸乱れず動かすコンダクターの役目を持っている等、はじめて聞くお話に驚くと共に一緒に踊られる先生の体の柔らかさに驚かされ、舞台の上で力強く響く太鼓に合わせ、後列と左右両脇で長提灯を振る美女の姿はそのまま屋台が前に進んで来る錯覚にとらわれ、感一入でした。金子院長はロータリーのガバナも勤めておられ、尊父から引きついで秩父音頭の屋台囃子を日本はもちろん世界に紹介する努力をしておられます。感激の中に各先生がたの美声を聞かせていただきました。

翌朝8時にまた大広間で朝食会を行い、お名残りを惜しみながら、バスで大宮へ帰られる方、タクシーでお寺巡りをされる方を雨で煙る中お

第40回
日本女医学会定時総会
と き：平成7年5月27日
と ころ：大宮ソニックシティ



第23回国際女医学会議(MWIA)に出席して

第23回国際女医学会議から
National Coordinator 報告

常任理事 平敷 淳子

見送りいたしました。他県と違い特別な見る所もないこの埼玉に全国からきて頂くのに、どうやってお迎えしたらよいやら、支部長はじめ一同困惑いたしました。が、ヤルツキヤナイの支部長の悲壮な決意の下、二年間会員一丸となって毎月会合を開き、支部長の指示コピーを頼りに各役員

のご意見を取り入れ研究し、やっと具体化したトクタンに阪神大震災、やっとな見込みが立ったとたん「一連のオウム被害、いつもハラハラドキドキ、こんなに成功裡に終了できたのは支部長の超指導力と、ご参加の諸先生のおかげと深く感謝いたします。私は医療係を担当したのですが、一

人のご不快な方もなく開店休業で、本当にありがたく思っております。長い長いと思っていた総会も終わって、支部長中心に精魂こめて頑張ったことが懐かし、よき友人に恵まれたことを感謝すると共に、日本女医学会のますますのご発展を心からお祈りいたします。

を以てご報告され、佐藤会長、平敷 National Coordinator と共に中村先生を会場に紹介されました。最後に西太平洋地域の次期 Vice President 橋本葉子先生をご紹介します。

5月8日からの会議に先立ち、各国の会長と National Coordinator (NC)との懇談会が開かれ、国際女医学会長 Dr. Ward から第23回開催国オランダと、過去三年間各地域のまとめ役として活躍された Vice President に対して感謝の意が表されました。懇談会では国際女医学会のあり方、活動内容、財源、人的資源等につき西太平洋地域六カ国で話し合いました。その中でも女子医学生数の増加は各国で問題を提起していることが話されました。

接することができただけでも、この会議に出席した価値は十分にありました。Dr. Ward 流の会議の進行とは、意見のある人は拳手をしマイクの前に進み出で、まず議長を賛美し、「Dear Mme Chairperson」、自分を名乗り、賛成か反対か明確な意見を述べる。決して席に座ったまま大声でわめいたり、私語を交わしてはいけません。何度となく会員をしっかりとたしなめて下さっていたのが印象に残ります。

1、山崎倫子日本女医学会名誉会長が韓国の Dr. Il Ok Cha と共に MWIA 名誉会員になられました。
2、新しく参加国となったベニン、ザンビアに加え、個人会員が東欧諸国を中心に約二十数名参加されました。
3、小野春生先生(二〇〇〇ドル、佐野理事五、〇〇〇ドル、アメリカの Dr. Kruse は両親の遺産を MWIA 本部へ寄付されました。
4、参加費の値下げをインドの代表がコメントしましたが、決議には至りませんでした。
5、次期会長、次々期開催地等につき投票が行われました。
次期会長については三名の立候補者がありましたが、いずれも三分の二以上の獲得票が得られなかったため、当日の午後5時に再投票。ここでは「最高得票者を以て当選とする」とされました。

1、学術担当理事からの提案について
① 常染色体遺伝子関係の疾患に対する遺伝子治療の是非について、「somatic gene」に対して、という制限があるので、倫理問題等を含め一定の基準をクリアしていれば治療をし

MWIA 第1回総会 5月9日
理事、監事を中心に参加者の先生方と共に以下の議論や決議に加わり

MWIA 第2回総会 5月11日
国連方式の議決方法が初めてであった先生方も、二回目ではすっかり慣れて、楽しくかつ慎重に総会に参加されました。

MWIA 第3回総会 5月12日
は本部に保管してあります。

オーストラリアに決定いたしました。そのため、西太平洋地域会議の開催予定地を変更する必要が生じ、副会長としての私の最初の仕事は、開催国と副会長候補国の順位を各国の役員に提示することでありました。平数 National Coordinator 及び前副会長 (Dr. Dizon) と相談し、一応別表 (前頁) のようになりまして、これは改めて各国に提示し、了解を得たいと考えております。

プロバンス地方とブルージュの旅

千葉支部 久田タカ

成田を飛び立った。夕食を楽しみ朝食を食べ、補食のおにぎり一個いだけたら、真青な空の、オルリー空港に立っていた。国内線に乗り替え、マルセイユへ。眼にしみる蒼い海。男たちのギラギラとした眼差しを背中に感じ、思わず自分のポシェットを強く抱えこんだ。岩窟王で有名なイフ城のある島に着いた時、やっと心身ともにゆったりとし、今自分は、日本女医学会の皆さんと一緒にハーグでの国際女医学会への旅に出かけて来たのだと感じた。これから私たちは、フランスのプロバンス地方、アルル、カンヌ、ニース、モナコ、ベルギーのブルージュをへていよいよハーグでの国際女医学会へ

今後は国際女医学会本部から種々の問い合わせが殺到するかと存じます。それに対する返事は六週間以内には送らねばなりませんので、皆様のご協力を仰ぐことも多々あるかと存じます。微力ながら精一杯努力して副会長職を務めたいと考えておりますので、なにとぞ会員の皆さまのご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

と向かうことになるのだ。ハーグでの国際女医学会の様子はその筋のベテランの会員の先生にお願いすることにして、私は主にオプショナルのプログラムについて、書いてみたいと思います。

開会式の後に、デルフト焼の陶器をみに行きましたが、ともかく、デルフトの街の美しさに驚きました。まるで映画の一駒と思われようような景色が数多くみかけられました。

第一回総会の後、夜の観光で、アムステルダム運河巡りに行ったときのことでした。バスの中で私の隣りにたまたまイスラエルの女医さんと一緒にいました。英語の苦手で私とイスラエル人との二人では、なかなかシククリと話せません。そうだな、歌だ、と思い、ちよんどうでテラテンが亡くなったとのニューが入った時だったので、テラテンを思ふで、テラテの歌を友達とハミンクしました。イスラエルの彼女が、ソング、ソングと言って喜んだので、今度はイタリアの名曲の「サントルチア」と、帰れソレントへ」などをイタリア語で歌ったら、ナント彼女もイタリア語で歌い、見事に私たち二人の息がピッタリと合い、抱き合ってしまった。世界の名曲には国境がないとつくづく感じました。

次にキーンホーフ公園のチューリップをみに行きましたが、このたびは桜は散って葉桜でしたが、スケールの大きいこの公園に、色とりどりのチューリップの花が咲き乱れる景色に目を見張りました。驚いたことにつつじの花が満開で、燃えるような美しさは圧巻でした。

第2回総会の後では、クレラ・ミューラー美術館に行きました。美術館はやわらかい若葉の林の中に梵天として建っていました。そして、ヴァインセント・バン・ゴッホの作品がたくさんありました。糸杉のある道「サン・レミの庭」アルルの跳橋「夜のカフェ」をみた時、一週間前にアルルを旅した時にみた景色がそのままゴッホの絵の中にかかっていたので、非常に身近なものに思えました。私が長年にわたって本物をみたくて思っていた向日葵(黒つ

ばいひまわり)をみた時、その花卉が強く上を向き、筆が大きく躍動しているさまに強い感動を覚えました。悲しくも愛すべきゴッホ、自らピストルの弾丸を胸にうちこんでしまった彼の生命は、一個の芸術家として世紀を越えて、私たちに語りかけ、感動させ、壮烈な何ものかを与えてくれる。このなにかわかんないものは、ゴッホのてんかん気質、分裂病気質、テレビン油中毒等による

狂気が、私たちの心を魅了し、多くの人々に感動をあたえていたのではないうか。

今度の旅は、思いもかけず、ニースではシャガールの幻想的、そしてファンタスティックな絵をみ、後半はゴッホ、ゴッホ、ゴッホ、でしたが、私の心は大きくふくらみ、表現しきれないなにか偉大なものに触れた喜びで一杯です。そして多くのお友達に出逢えたことは大きな収穫でした。

ベネルックス三国・モーゼル溪谷・ライン河紀行

千葉支部 川村章子

ハーグにおける第23回国際女医学会は5月12日で終り、13日からベネルックス、ドイツにわたる観光旅行になりました。

13日朝9時、六泊したベル・エアホテル発、バスはロッテルダム、キンデルダックと進む。ここは運河添いに十九基の風車が並び、土曜日にはその廻るのを見られるという。今や風車はほとんど観光用であるらしい。

ベルギーとの国境には銀行があり両替をしてくれる。バスポートの提示などはなくベルギーに入る。オランダから続いている運河と田園の風景に少し変化が来てやや起伏のある地形になっている。ベルギー第二の

都市アントワープに入る。広場に巨人伝説のローマの勇士の像がある。このあたりは北方のゲルマン民族にラテン民族が混在し、ドイツの研磨に長けたユダヤ人の地区もある。

スヘルデ河の船上レストランで昼食、ダイヤ工房等を廻りアウトバーンでブラッセルに。ブラッセルのホテル・シエラトンに着いたのは七時。ブラッセルは二泊。十四日は古都ブルージュに向う。日本の京都というような町だそう、市内に観光バスを入れない。手前の村でバスを降り、古い村の教会、建物を見ながら徒歩で運河の観光船に乗り、ブルージュまで下る。港として昔栄えた市だとのこと、中世の街がそのまま残

ついている。今回の旅のどこでも花の季節で、マロニエ、ライラック等豊富な花々が緑の中に目覚めるような美しさだった。

レストラン・レ・カルメリットで昼食、徒歩でマルクト広場に出る。古代からの町の中心だった広場を囲んで市役所、教会、商店街があり、市内観光の馬車がたむろしている。三十分ほど馬車に乗ったり聖血教会のステンドグラスの光を浴びたり、レース店で買物したり。バスに戻ってセント市に行きホテル帰着六時。15日午前中はブラッセル観光、この市は古い建物を残してビルに建て替える運動があるそう、古い煉瓦の建物と新しいビルの混在が見られる。一九五六年万博のシンボル、アトミウムが銀色の九個の球体を空に輝かせている。王宮、市役所、公園などの地区を過ぎて商業地区に入ると日本商社のビルも見られる。丸紅ビルの日本料理「田川」で昼食。

16日9時ホテル発、古城めぐり。個人のもの、管理人の居るもの、博物館のように中世の家具、調度、美術品の展示をするもの等々。食通の町というアルヴェイエで昼食。午後錫の工場の街フイエに行く。夕刻ディナンに戻りメルキュール泊。

17日、雨の中を四〇〇キロのドライブ。ルクセンブルグを経てドイツに入りトリア。古代の建築ポルターニグラ。モーゼル溪谷を走りワイズバーデン、ホテル・ナツサーホフ泊。18日8時ホテル発、フランクフルト空港8時30分。アムステルダムに正午少し前に着く。2時50分の出発まで免税店で買物である。

19日午前8時30分成田着。いろいろお世話になりました。

ニース・南仏プロバンス地方観光

青森支部 金田八重子

私たちのツアーは十五名、JALでまずパリに飛び、ここから国内線でマルセイユまで十四時間のフライトでした。

デユマ作「岩窟王」の舞台として有名なイフ島はマルセイユの港から美しい海岸を三十分ほどフェリーでクルーズしますと青い海の中に小さ

第6回国際女医学会西太平洋地域会議のお知らせ

開催地	Hyatt Hotel, Auckland, New Zealand	Hyattホテル、オークランド、ニュージーランド
ホスト	The New Zealand Medical Women's Association	ニュージーランド女医学会
会期	20 ~ 23 March 1996	1996年3月20日(水)~23日(土)
メインテーマ	The Health and Well-Being of the Family	家族の健康と幸福
サブテーマ	● Families from Different Cultures ● Family Dynamics ● The Changing Role of Women ● Disabilities within the Family	● 異文化の家族 ● 家族力動 ● 変化しつつある女性の役割 ● 家族内の障害者
別枠のテーマ	Recent Advances in Medicine	医学の最近の進歩
抄録		1995年8月31日(木) 〒350-04 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38 埼玉医科大学・放射線科 平敷 淳子教授 FAX 0492-95-8003

抄録は下記の項目を英語で記入して下さい。ワープロ又はタイプライター記入すること。

Name:	Title of Paper/Poster
Family Name:	Abstract (Maximum 250 words Double Spaced in English)
Title:	Audiovisual Equipment Needed:
Medical Speciality:	<input type="checkbox"/> White Board <input type="checkbox"/> Overhead Projector <input type="checkbox"/> Slide Projector
Address:	<input type="checkbox"/> VHS Video (PAL System) <input type="checkbox"/> Other (Please State)
Phone:	<input type="checkbox"/> Paper <input type="checkbox"/> Poster
Fax:	

阪神淡路大震災 義援金のご報告

な古城の島が見えます。モンテクリスト伯が閉じ込められたという岩窟は十畳ほどの石畳で今までに三、〇〇〇人くらいが投獄されたとのこと。アルルの町はローマ時代の遺跡が多く、石畳の道を民族衣装の男女や可愛らしい子どもたちが徒歩で、あるいは馬で三々五々、夕方からローマの円形闘牛場で行われる催しに集まり、中世の映画に自分も出演しているような錯覚を覚えました。ゴッホの黄色い家のモデルとなったレストランでのデザイナーもいい思い出となりました。

ゴッホ、セザンヌ最近ではピーター・ド・ロンボを魅了したプロバンス地方はきらめく陽の光の中、豊かな自然いっぱい、ゴッホのはね橋、糸杉、麦畑、ひまわり等多くの傑作を生んだ所です。サンレミ・ド・プロバンスはゴッホ終焉の地記念病院があり、現在は修道院となっています。ダンテが地獄編の着想を得たといわれる死者の町、白い石灰岩の奇景レポー・ド・プロバンス、ローマ時代の遺跡水道橋ポンテデューガル、ゆったりと流れるローヌ川にかかる輪になって踊ろよのアーヴィニオン橋(正式にはサン・ベネゼ橋)、法王庁跡を散策

しました。アルルから高速道路でコート・ダジュールの中心カンヌは一週間後に映画祭をひかえて、にぎわっていました。お天気が良く気温は二〇、二五℃で皆海岸で海水浴、日光浴を楽しんでいます。コート・ダジュールの首都といわれるニースは世界の保養地といわれるだけに紺青の海を抱く美しい港にそって高級住宅やショッピング街がどこまでも続きます。この中央にひととき高くそびえるドームの超高級ホテル「ネグレスコ」が私たちが二泊するホテルです。宮殿風の建物は史跡として指定されておりロビーも広間も肖像画がいっぱいで、瞬時王侯貴族の気分を堪能しました。プチトランに乗ってプロムナード・デ・ザングレンや城跡、旧市街の見物も楽しい思い出です。モナコへの道はヘヤビーンカーブが多く、自動車レースが行われるという坂道です。グレース・ケリーの事故現場を通り、王宮の中にある教会のお墓にお参りしました。

グランカジノは表面から見ただけでしたが、すばらしい建物で高級社交場とはこのような所かと感嘆しました。

オランダの印象

神奈川支部 稲生 襄

南仏を後にベルギー、オランダに向いましたが、古い立派な歴史、すばらしい芸術、文学に嘆息の連続でした。

オランダは日本の九州くらいの大さで、人口は一五〇〇万人、チーズやチューリップで有名であるが農業国ではなく、実は一大工業国で世界的大企業が多い。通商国家として長い伝統をもち、Zaaiers and とは低い国を意味し、国の半分近くが数百年におよぶ事業により陸地化した国という。ロッテルダムは神戸と姉妹港になっている。

通貨は一ギルダーが約六十円。時は日本より八時間おくれ(夏時間の時は七時間おくれ)。

国際会議はハーグで行われたので、近くのベル・エアー・ホテルに宿泊して一週間の間徒歩でネザラランドコングレスセンターという会議場へ通った(約五分)。中級のあまり感心したホテルではなかったが……。

ハーグは人口五〇万、オランダ第三の大都市で、諸官庁、議会、最高裁判所などがあり、オランダの主都である。ホテルから市街へ出るにはタクシーを使わねばならない。

国際会議に障りない時を選んでコマメにあらこちらと観光をした。

5月7日会議登録のあと、夜は会議場一階にてウエルカムパーティーがあった。格別の挨拶もなく、セルフサービスの馳走にて気楽なもの。ここで元国際女医会々長小野春生先生にお目にかかったが、長い間お体がお不調のようであったのに、よくここまで来られたものと嬉しかった。

今回、私たちは明るく、暖かい地中海から暗く荒々しい北海まで廻ったわけで、すごい旅行だったのねと話していました。

◎パノラマ メスダフ
海洋風景を専門に描いたオランダ人画家メスダフが主となり、円形の画面の大作でよかった。絵葉書を購入したが、全然この絵の迫力を見てからはダメであった。

◎マドローダム
第二次大戦中戦死した息子を記念して百万長者の両親がつくったミニチュア・タウンで、オランダ各地の名所が二五分の一で再現されており、大変面白く参考になった。

◎メジカルセンターやヘルスセンター訪問もあったようだが、自分参加しなかった。

◎マルケンとホーレンタムの漁村観光に九名の方が参加したようであった。

◎コペンハーゲンへ一泊小旅行(一〇名参加)。北欧の一国デンマークの主都コペンハーゲンへ、往復はフライトで。一八四三年にオープンしたという有名なチボリ公園、人魚姫の像、アマリエンボー宮殿の他に到着してすぐみえた「老人ホーム分譲貸出しの庭」は老人福祉の行き届いたデンマークならではの感心させられた。

ご報告にあわせてあらためて兵庫支部会員の皆様のご健康と新しいご出発、ご活躍を心からお祈り申しあげます。

会長 佐藤 千代子

義援金賛同者芳名 (敬称略・順不同)

- 北海道**
岩永未知代、一戸 茂子、遠藤 真理、岡嶋喜代子、奥山 春枝、柿木 ヒデ、今野 タイ、佐藤 英子、齊藤 英子、柴田 夫佐、四王天千枝、武井 弥生、富樫 芳、中根 敏得、野沢 京子、濱田 幸江、藤原 幸子、本間 明子、前川 静枝、水島 淑子、百瀬 貞子、横田 登喜
- 青森**
阿部 久代、石橋 洋子、大津 幸世、於本 晴美、大橋 良子、金田八重子、近藤 智子、白取田鶴子、館田 恭子、高木 雅代、角田由美子、対馬 とせ、永山 浩子、中野 こう、平賀 尚子、堀内 夏子、前田 慶子、三上 ホフ、村上 京子、横内 幸子
- 秋田**
猪股 テイ、加藤 芳、金子ミサヲ、佐々木セイ子、細谷貴美子、松浦 麗子
- 山形**
阿部 信乃、岸 よし、見澤 和子
- 岩手**
小川婦美子、根本 笠子、水野 綾子
- 宮城**
安倍 マサ、今泉 栄子、梅原 ミヤ、小田 泰子、大森 尚子、鎌田 宣子、加藤 玲子、木下 いう、小松 良子、佐藤 葉子、齊藤 和子、佐々木和子、清水 洋子、竹中 美智、中川 栄子、中村 マサ、芳賀 元子、福原恵比子
- 福島**
松山、京子、森 絃子、山本 蒔子、渡部 光子、浦井 恒子
- 茨城**
今村 容子、遠藤 房子、大平ツヤノ、菊池 寿子、草野 道子、鈴木 ヒサ、原 多恵、馬場 恭子、福田由美子、宗像 美恵
- 群馬**
石井 朗子、池上 博子、池上 洋子、大谷 節子、尾城 政子、太田美つ子、川辺志津子、金子栄美也、桂 アグリ
- 栃木**
岸 千鶴子、岸 直枝、草間 香、木暮満子、佐々木恵子、正田二寿子、志馬真理子、鈴木 政子、田中富士子、田中 知恵、戸塚 俊子、戸塚 陽子、古川 雅子、星野富美子、真下 静枝、丸茂 昌子、道又 俊子、宮原 茂子、安岡朝子
- 埼玉**
秋濱 示江、新井 タネ、飯野 方子、伊藤 元、飯塚 治子、岩崎 泰子、池田 絹子、岡田 清、大沢みちえ、小野 昌子、河鍋 楠美、加島 なみ、菅野千鶴子、久我 みよ、岡松 ふみ、佐々木道子、佐々木裕子、定森 真理、清水 静枝、鈴木ハルエ、関根 みよ、高野 真綾、高崎イツ子、田中 蘭子、津島 まさ、中内 玲子、榎沢 芳江、早川 佳子、服部紀代子、長谷川厚世、畑 靖子、藤塚 誠子、深井登起子、平敷 淳子、松村 啓子、牧田 輝子
- 千葉**
丸木 希代、源川千鶴子、宮本 好、村田 郁、行定 法子、吉住 幸子、吉崎喜美子
- 茨城**
新井 寧子、岩本由基枝、飯村 昭子、上野 寿子、大塚美恵子、大平 民子、岡田真由美、熊谷 さち、清水いほね、多賀谷逸子、高橋志津江、寺西 恵、南里 栄子、根本 由佳、浜田登茂子、古谷 貞子、細川千和子、山崎 トヨ、渡辺千絵子
- 茨城**
芦立 かつ、池野美恵子、伊藤千枝子、飯田千枝子、大槻美枝子、尾川 泰子、小川 英子、小泉 和、小松崎安美、桜井 利子、延島 幸子、古橋登美江、深田 千エ、松岡知恵子、松永 幸子、宮田 聡子、宮本 真理、宮本 佳子、山下 タカ
- 秋葉**
秋葉 則子、安住真理子、大橋 幸子、大嶋美屋子、加次井育子、河原よし子、木原 享子、齊藤 達子、作田 静子、西浦 慶子、二宮 もと、野口 和子、原田 淳子、林 雅恵、発地瑠璃子、久田 タカ、間宮美恵子、町田 俊子、三橋 麗子、三宅 迪子、山本みどり、和田 一恵、和順美和子
- 足立**
足立 豊子、鈴木 式子、土屋 満枝、佐藤 保子、増田須磨子、吉田 幸子、永田 保子、増田須磨子、吉田 幸子、荒川 光子、清水智恵子、土屋 臣子、加藤 光子、清水智恵子、土屋 臣子、日野チヨコ、袖松ヒサ子、吉武 幸、板橋 信子
- 江戸川**
市村みゆき、上田 たね、柴田 敏子、山上美枝子
- 大田**
岩平 佳子、上田いと子、近江 久子、及川 貞、大下富美代、加藤香代子、小林 貞子、佐藤 良子、清水 有子、白橋 美笑、中川 富士、南雲 君代、弘瀬知江子、藤岡 和美、山本 由子、渡辺 順子、渡辺 智恵
- 葛飾**
青井 禮子、姉小路和子、小松 郁子、関口たか子、長沼 薫、西川ヲサ子、日野 久子、山口 三重
- 北**
石川きみ子、椎原 順子、鹿田 儀子、竹内富美子、長瀬美良子、内藤 澄江、船木 依子
- 江東**
丸山 芙美
- 品川**
加藤きい子、工藤 吉枝、下重 康子、柴田 洋子、鳴海 すす、西川 トシ、山田未知子
- 渋谷**
有住 和、井沢 金子、長田 富香、小暮 要子、小針 照子、杉江 玲子、添田 百枝、脇田 昌子
- 新宿**
岡村 正子、栗原 久子、今野 信子、近藤 トシ、酒井のぞみ、竹下 寿子、西 咲子、濱田 雅、原田 綾子、平野 京子、藤尾 良枝、米谷 久代、杉並 波子、浅見 薫子、磯部アイ子、新 和子、太田 玲子、小沢美保子、岡本 和子、太田 玲子、小沢美保子
- 河内十三子**
河内十三子、川原 道子、木下 利子、熊谷美津子、白浜優美子、関 幸恵、瀬戸富喜代、中島 桂子、半沢 紀子、森 千恵子、茂木 智子、山住美津子、山田三枝子
- 豊田**
相原 静江、甲子万里子
- 世田谷**
芦沢 菊枝、飯倉 憲子、岡 富美、大谷 恵子、大坪 公子、北川 艶、齊藤 文子、柴田恵理子、中村 西子、中橋 光子、林 久子、人見 俊子、藤田 親代、富崎 明子、富崎 君代、三神 美和、守安 素女、米山 たつ中央
- 中央**
外山 千エ、中嶋 幸子、守屋 孝子、吉田 ゆき
- 千代田**
赤川 セツ、井上 柳子、宮川美智子、三原伊保子
- 豊島**
上木 艶子、金子 智子、高橋 信子、堀口 文、村上レイ子、山下 知子、渡邊 静子、渡辺 政子
- 中野**
大谷 明子、倉島 摂子、呉 朋子、古賀 和子、白浜 光子、関 静、勅使河原弘子、中山 年子、奈良 和子、長濱 レイ、荷見 圭子、宮岡 佳子、溝口 昌子、長田 安代
- 練馬**
足立茂代子、阿部 秀世、石原 幸子、大杉 芳美、神山 シツ、榎原八千代、渋谷 節子、関口 喜久、藤田 禧、藤岡 邦子、三浦 明子
- 文京**
文京

Table of names and titles for the 143rd issue, including members from various regions like Osaka, Kyoto, and others.

Table of names and titles for the 143rd issue, continuing the list of members and their affiliations.

Table of names and titles for the 143rd issue, listing members and their roles in the association.

Table of names and titles for the 143rd issue, listing members and their roles in the association.

阪神淡路大震災義援金収支報告

平成7年6月5日現在

Financial report table showing income and expenses for disaster relief, including items like '義援金' (donations) and '医療救済活動' (medical relief activities).

Table of names and titles for the 143rd issue, listing members and their roles in the association.

Table of names and titles for the 143rd issue, listing members and their roles in the association.

Table of names and titles for the 143rd issue, listing members and their roles in the association.

Table of names and titles for the 143rd issue, listing members and their roles in the association.

評議員会議事録

日時：平成7年5月27日(土) 場所：大宮ソニックシティ

評議員数 一〇七名 出席数 六七名 記名委任数 二四名 白紙委任数 一名

会長挨拶 佐藤千代子 (報告) 1 会務および事業報告 久田タカ

2 平成6年度特別会計報告 川田喜代子 吉岡弥生賞基金会計 国際女医学会記念事業基金会計

3 会費改定の件 中濱昌子 4 号議案 会費納入方法改定の件 青井禮子

5 号議案 平成7年度一般会計収支予算案 6 号議案 次期総会開催地に関する件

7 号議案 次期開催地 福岡 閉会の辞 原案どおり可決 午後12時16分閉会

理事会議事録

日時：平成7年3月25日(日) 午後3時30分

場所：京王プラザホテル

出席者：佐藤、白浜、中濱、野澤、石原、稲生、栗原、佐々木、橋川、橋本、松井、丸茂、川田、鹿田、久田、松本、宮原、村田、吉崎、南雲、野呂、藤岡 (以上22名) 欠席者：青井、佐野、野本、平敷、大澤、大坪、加藤、佐伯、清水、田中、西嶋、山本 (以上12名)

1月理事会の議事録を承認。

議事検討事項

一、庶務報告 鹿田理事 別紙どおり報告、承認される。

二、会計報告 川田理事 平成7年2月分収支、別紙どおり報告、承認される。

三、各部報告

【事業部】 丸茂常任理事 エイズ小冊子の残部、現在二、八三六部。

高崎市新聞より「高崎での公開講演会の講演内容をパンフレットにしたい」との申し出があった。

現在の年金加入数は四一九口、スパーガン保険の新加入は一七件。

【広報部】 稲生常任理事

3月16日、第一四二号会誌割付会議を開催。

【渉外部】 野澤副会長

別紙どおり出席。

【学術部】 橋本常任理事

1月28日のワークショップについて報告。

6月24日福岡でのワークショップについての報告。

研究助成三名に決定。

向井千秋さんを講師に予定していた公開研修会は向井さん多忙のため11月開催は不可能なので、会の時期を変え再申請することに。

四、定時評議員会、定時総会について

定時評議員会、定時総会における議事のそれぞれの発表者を決める。

2月常任理事会で決まった「地域功労賞」について説明。

五、国際会議について

各旅行社への申し込み者は阪急一九名、日通一五名、JTB八名、合計四二名。

会議開催中にバザーがあるので、一、〇〇〇〜一、五〇〇円くらいの日本的な品を持参すること。

六、平成7年度事業計画案および予算案について

各部から提出された要望額を検討し、平成6年度末までの一般収支推定額より算出した7年度予算案の説明が会計部よりあった。

避けられない会費値上げについて、値上げ幅をいくらにするか、会計部で違う値上げ額でのシミュレーションを作り検討する。来月の理事会まで継続審議。

会費納入方法についての説明は次回理事会で行う。

地域功労賞の記念品は事業雑費より賄う。

七、6月移動理事会について

福岡で開催するため交通費の半額を自己負担にするのか検討したが次回理事会へ継続審議。

八、医療救済活動および義援金の配分について

第2次巡回医療活動(3月11日、12日)の報告。

寄付していただいていた残った眼鏡の有効な利用法を考える。

巡回医療に参加された会員に対し旅費を支給するかの討議した結果、全員賛成で承認される。

義援金九、九一一、〇〇〇円集まり、医薬品などの支出を引き、現在の残金は八、一四〇、七八九円。義援金を兵庫支部の被災された先生の方に差し上げるか、他の医療活動をしているボランティアグループへも寄付するか討議したが、次回理事会へ継続審議。

九、平成7年度役員会開催日について

別紙どおり決定する。以上

副会長(庶務部担当) 白浜

石原、橋川、鹿田、久田、村田

会員動静

入会会員(敬称略)

埼玉支部 奥野洋子、清水智江、福島康子

板橋支部 宮田麻理子

新宿支部 山田多佳子

集記 編後

中野支部 橋本レン 東女学内支部 渥美綾子、神奈川支部 近藤えり、辻沢キヨ 愛知支部 後藤節子 大阪第10支部 西尾千津子 高知支部 上田明美、高慶康子、末永亜佐子、横島悦子

福岡支部 小野順子 退会者 二四名 物故者(敬称略) 茨城支部 岡野はな 渋谷支部 小暮要子 神奈川支部 稲葉幸子、養老静江 兵庫支部 河本まさ子 福岡支部 花井敏子

日本女医学会の総会が第四十回という節目であったことから今回の会誌は、「記念すべき特別な会誌」となりました。

私は広報担当という立場を忘れて感慨深く、興味深く読ませていただきました。佐藤千代子会長の総会での挨拶には、阪神大震災直後の日本女医学会のす早い対応と、瓦礫の焦土と化した神戸での女医学会の活躍が綴られており、胸のすく思いをなさりながらお読みいただけただけのことかと思えます。また、吉岡弥生賞をはじめとしましてさまざまな賞を受けられた方々の挨拶文に、共通して「多くの方々の支えがあったからこそ」という謙虚な「感慨」に私は心を洗われる思いがしました。実は、私も先年吉岡弥生賞を頂戴いたしました。そのさいに「横浜市の真ん中にあるドヤ街の寿町診療所を続けることができるのは、診療所スタッフの皆さま

制作

編集人 稲生 襄 発行人 日本女医学会 発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル 社団法人 日本女医学会 電話 三四九八一〇五七二 FAX 三四九八一八七六九 東京都文京区水道1-5-16 株式会社 金剛出版

平成7年7月20日 印刷 平成7年7月25日 発行